大反響！窓セミナー

9月21日から10月2日まで、札幌・横浜など日本全国8ケ所において全米林産物製紙協会（AF&PA）、ワシントン州政府、日本貿易振興会（ジェトロ）の共同主催による窓の取り付けセミナーが開催された。「輸入窓の取り付け方ー地域対応の耐水防湿対策」と題したセミナーは、窓取り付け実践講座にワシントン州のベイツ・テクニカル・カレッジより講師であるジョン・ピーターキン氏を迎え、窓・

ドアを取り付ける際の手順や注意事項など、建築現場での作業に重点をおいた具体的な技術情報がくまなく提供された。セミナーの冒頭では、ワシントン州政府スタッフのコーリン・ジョンソン氏がセミナーの目的や窓の取り付け方などについての大枠を、スライドを用いて説明。横浜など一部地域では、ゲストとして全米木製窓・ドア協会会長のアラン・キャンベル氏を招いて、米国での木製窓とドアのマーケット動向や品質保証制度などについての講議が行われた。窓メーカーのミルガードやジェルド・ウェンなど計６社の簡単な企業説明なども含め、セミナーは約5時間という長時間にわたって行われたが、参加者の眼差しは終始真剣そのものだった。

現場施工者の参加増加 実践セミナーの必要性高まる

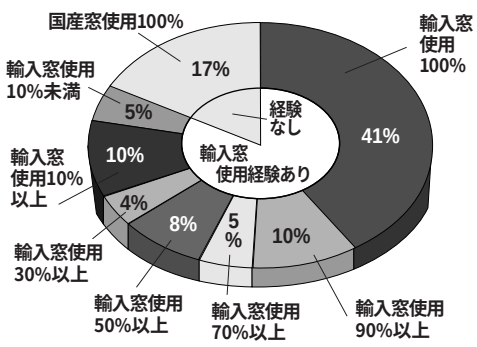
ワシントン州政府住宅産業担当、スティーブ・コーレス氏の話によると、今回のセミナーと今までのセミナーとの違いは、参加者数の多さもさることながら、参加者の参加形態に変化が見られるらしい。これまでのセミナーの参加者形態は、会社の取締役など社内での経営的立場にある人の参加がほとんどであったが、今回のセミナーでは現場施工者の参加が目立っていたようだ。これは、現在の建築業界において、今回のような技術セミナーの必要性が、会社経営の立場としての情報収集から実務的なトレーニングへと移行したことを現している。

実際、セミナー開催日は作業服を着用した施工者らしき人々の参加が以前と比べ増えていた。休憩時間中には、展示された窓の周辺に集まり、講師陣とともに取り付け関連の論議を熱く交わしたり、講義中、ピーターキン氏が窓やドアの取り付け方法についてサンプルを用いて細かく説明する場面では、会場から撮影用フラッシュが飛び交うなど、実務的な内容に対しては特別の関心をもって参加に臨んでいたようだった。

アンケート結果が語る 輸入二重窓使用の実態

セミナーに参加した人々から回収したアンケート結果によると、輸入二重窓を使用したことのある会社は、全体の83%、全く使用したことのない会社は17%にであった。そのうち、二重窓の輸入品・国産品の使用の内訳で、日頃から輸入二重窓使用の内訳が90%以上にのぼる会社は全体の51%、半数以上に及んだ。

もっともこれは、二重窓を対象とした結果であり、もし単板窓を含めて調査を行っていれば、依然、国産品が優勢であったあろう。しかし、このアンケートでは、実際に社内で輸入窓を採用した経験のあることの会社が、相当数にのぼることを明確に示している。単に参加者が情報収集のためだけに来場しているのではないことを裏付ける貴重な数値となった。また、アンケートには「将来、輸入窓を使用する機会が増える」としたコメントもいくつか見られ、今後も輸入窓使用の割合は上昇する可能性があると思われる。州政府ではさらにトレーニング内容を発展させていく方針である。



セミナー参加者対象　（有効回答233）
二重窓使用／輸入品・国産品の内訳

アンケートに寄せられた窓セミナーへの感想・要望

- 窓の取り付けについては日頃から困っていたので非常に参考になった
- 窓廻り処理の重要性を知った
- 非常に内容が深かった
- 今までかなり多くの資料を見たが、今回のセミナーの資料ほど実践的なものはない
- アフターメンテナンスについてももっと知りたい
- 時間が短い、質疑応答の時間がもっとほしい